

# 自蹊庵便り

平成三十年 霜月

NO 134

く平和の姿を茶会に見るく

この度の松江の城じょうざん山茶会は、陰のス

タッフの方々の御苦勞を目の当たりに見ました。いつも会期中一日は雨に見舞われる

ことの多い十月ではありませんが、一難去つてまた一難の台風上陸、この異常気象によ

る日本列島、七月の豪雨での農作物での被害は七〇〇億円を越すと云われ、その後

八月九月の台風続き、風が強ければ海に囲まれてる日本、塩害も手伝って、異常な

暑さの中、被災した方々は、どう手入れをし、作業したら良いのでしょうか。

忍耐強い国民性をもってしてもこれまでにない夏の日照りと豪雨、冬の突然の大雪、

気がかりなこと山積の日本列島にございます。

さりながら、そんなこもごもの思いを胸に松江を訪れてみれば肅々と茶会の準備、

お城の城内にテントを張り、十余流派の方々が思い思いの室礼でお客を持て成す。

何と平和な光景であろうかと。

ですが、今回ばかりは台風の矛先、風速を加味すれば、さすがにテントは取りやめ

ざるをえず、断腸の思いの判断であったこととでしよう。この判断を下すまでのスタッ

フの御苦勞いかばかりであったことかと、常に段取りと片付の吾が身ゆえに、身に

まされる思いにございました。毎年春と秋、茶会を四十年余絶やすこと

なく続けてこられ、手薄なスタッフも老いに入り行く身、文化は継続からしか育まれ

てはいかないことを思えば、次の世代に繋げていくためにも、やり続けていく。この

度の台風は他はたごと事ながら落涙のおももちにございました。

折からの観光ブーム、海外からのお客も

多い中、せめて松江ならではの贅沢な風景と一服を味わっていたきたかったこと、

増してや今年是不昧公遠忌二百年祭という

思い入れ深き年、恨めしくも悩ましくある茶会模様にございました。

幸い覚悟ほどの被害もなくお騒がせ台風は足早に通り過ぎましたが、ホテルや温泉

旅館のキャンセル、飛行機、新幹線等々仕事柄そこに働く板前さん達の仕入れの御苦

勞など、時化で魚介の値は跳ね上がり、農作物もまたしかり、人々の暮らし、慎まし

やかな営みをよそに、台風というものは気まぐれにうねり、暴れ、去って行きました。

小さな島国の日本、何かしら今までにな

い覚悟のようなものがあるような気がいたしております。温暖化現象という一括りに

はできない何かが。私達の日常という平和な風景を脅かしているように思えてなり

ません。

そんな中での、この度の松江城山茶会、テントは諦めたものの、あちらこちらと建造物の中での茶会でした。お城を借景とした茶会の風情はとぼしくとも、それぞれの流派が立ち働きの、一服のお持て成しをするその光景、清々しく平和な風景がありました。

秋には紅葉と共に北海道から九州まで多のお茶会が開催されます。茶会の風情、まことに日本の山の山紫水明と呼吸を共にし、息遣いを今に伝え、そうした先人達、茶の湯人達のお陰にて今の日本文化の姿があります。

カトリックの国の何処にも教会があるが如く、日本では江戸時代に藩のあった処では大名のステータスとして必ず茶の湯の嗜みがあった時代哲学、今に受け継いできている日本という国の平和さ、他国からの侵略もなく、植民地にもならず奇跡の国ですよ。奇跡の国であり、希有の国である日

本、希有な国であるからこそ守られて来し茶の湯の世界、そして、ここ松江、不昧公様の残された偉功、日本の何処にあっても清き水涌く処、茶の湯ありき、平和の象徴のように思われてなりません。

この号が皆様のお手許に届く頃には初めての海外茶事を試みます。シンガポールのお客様からのお招きですが、清き水、旨し水を求めて三千里のこの世界、かなりの硬水地方と聞いております。はてさてどうなりますことやら…。次号、シンガポール紀行をお楽しみに。

あゝそうそう、松江の城山茶会、秀吉の北野大茶会のように、全国の茶の湯人を募り思い思いの茶点で処の風景もよろしいかと。ちよつとそんなことよぎった松江紀行にございました。

広島、米子と講演の間を縫って、久々に紅雪会ゆかりの人々と一献傾けた一夜、何気の手づくねの小服盃を五客ほどお持ちくださり、食事の後に一服の抹茶と菓子の小

籠に忍ばせ御用意くださった宮司のA氏、茶盃もどれも味わい深く、小服盃をいくつも作られている背景には日常という中の贅沢さを見る思いにございます。

帰りがけに御挨拶に伺った処にても、さりげなくポテポテ茶での一服、御祖母様からの直伝という見事な絹のような白い泡と共に茶の花の香りを堪能し、歴史と文化はお金では買えないということのしみじみ感じ入った一服、一服にございました。

この度も多くの皆様にお世話になりました。一服の重みの行脚、今しばらく続けてみましょう。

茶会という平和な姿の残れる日本に

感謝いたしつつ…。

合掌

シンガポールの準備も有り、一筆が書けないと思いません。お許しください。

## 茶事教室の御案内

### 東金教室

霜月の茶事（口切り）

十一月十二日（第二火曜）

十一月十三日（第二火曜） 研究科

十一月十八日（第三日曜）

席入り 正午〜午後四時終了

点前担当者、水屋実習者 午前九時

八時半に大網駅にお迎えに上がっております。

会費 一万三千円（レギュラー者）

一万五千元（単発参加者）

※今月は実壺料三千円を含みます。

※季節柄寒くなり、日も早く暮れます。

四時には終わるよう努力をいたしますが、途中でも東京方面の皆様は十六時三十七分久里浜行きの快速に乗って頂けるように、十六時十分には大網駅にお送りいたします。

（平日・休日共に）

※日曜クラスは、柏の葉公園茶室での茶事が十日、十一日と続く関係で第三日曜に移動しました。

お詫び申し上げます。

### 師走の茶事（夜咄）

十二月九日（第三日曜）

十二月十日（第三月曜）

十二月十一日（第三火曜）

席入り 午後五時

〜午後八時半終了厳守

点前担当者、水屋実習者

午前十一時半

十一時に大網駅にお迎え

会費 一二千円（レギュラー者）

一万四千元（単発参加者）

※今月は小灯料二千円を含みます。

※お帰りは、東京方面の皆様には

九時十九分久里浜行きの快速に乗って頂けるように、拙庵を八時五十分には出発し、大網駅にお送りいたします。（平日・休日共に）

○宿泊希望の方は、ゲストハウス

二千円。予めご予約ください。

○連日研修者は、翌日は五千円参加です。（翌日分の実壺料、小灯料なし）

## 京都教室の御案内

大徳寺 瑞峯院 余慶庵

### 口切りの茶事

十一月二十二日（第四木曜）

十一月二十三日（第四金曜）

### 夜咄の茶事

十一月二十四日（第四土曜）

十一月二十五日（第四日曜）

※既に御案内済みですが、お申し込み予定者（レギュラー、半レギュラー会員）は御希望日に○印をつけ、FAXにて返信のほど宜しくお願い申し上げます。

※二十二日口切り茶事は満席となりメ切らせて頂きました。水屋方、台所方は空きがございます。

（十月十日現在）

湯河原教室

十一月四日(第一日曜)

十一月五日(第一月曜)

十二月十六日(第三日曜)

十二月十七日(第三月曜)

利休会記を読み解く会

十一月十七日(第三土曜)

午前十時から正午

会場 Ginza Six 6階

蔦屋書店

十二月二十三日(第四日曜)

会場 古石場文化センター

江東区古石場二丁目十三番二

03(5620)0224

時間 午前九時～正午

会費 三千元(両月とも)

NHK文化センター講演

柏教室

十一月八日(木)

午前十時～午前十一時半

東京 青山教室

平成三十一年一月三十一日(木)

午後一時半～午後三時

九州 熊本教室

平成三十一年二月二十七日(水)

午後一時半～午後三時

九州 福岡教室

平成三十一年二月二十八日(金)

午後一時～午後二時半

おせち料理仕込み日程

十二月二十六日～三十日

単発参加費 一日三千元

三日以上参加者一律一万円

制作したものを持ち帰ります。

材料は実費でお分けいたします。

詳細は次号にて。

松平不昧公二百年忌

ゆかりの陶工二人展

十二月一日(土)

～五日(水)

出雲焼長岡空郷氏

布志名焼土屋雲善氏